

令和7年度子どもゆめ基金助成事業

「児童福祉施設で暮らす子どもが笑顔になる 自己肯定感向上のあそび交流」

報告書

虐待など家庭の様々な背景を抱えて児童福祉施設にいる子どもは、成長発達に必要な人とのふれあいや様々な体験の機会が少なく、将来への不安を抱えている。プロのパフォーマーによる本物の芸術にふれ、創造性豊かなアートを通して夢中にあそび、仲間と一緒にワクワクと楽しい時間を過ごすあそびと交流の体験を届け、互いに認め合う中で笑顔になり自己肯定感がはぐくまれ、次への希望や生きる力につながる。



主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉2-17-6 サンコート新千葉102号
TEL：043-301-7262 FAX：043-301-7263
Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp URL <https://chiba.gekijou.org/>

後援：千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県医師会 千葉県小児科医会

ワーク実施一覧

	施設名	実施日時 実施場所	プログラム 指導者	指導者	協力者	子ども	大人	参加総数	参加人数内訳
1	市川児童相談所	7月14日(月) 13:00~15:00 2F 講堂	「アンディ先生のマジックショー&マジックワークショップ」 アンディ先生 中村幸恵 清水百世 岡田泰子	4	2	51	10	61	子ども 51人(幼児6 小学22 中高生23) 大人 10人(職員) 合計 61人
2	不二学園	8月4日(月) 13:30~15:30 食堂	「君はこのなぞがとけるか?」 大森靖枝 三根政信 買場都明 太田貴子	4	3	30	7	37	子ども 30人(小学中学) 大人 7人(施設職員) 合計 37人
3	君津児童相談所	8月15日(金) 13:30~15:30 2F 会議室	「こまのたけちゃんといけん玉・こま回しにちょうせん!」 たけちゃん 買場都明 宇野京子 棚田純子	4	2	25	14	39	子ども 25人(幼児1 小学16 中学7 高校1) 大人 14人(職員) 合計 39人
4	千葉県児童相談所 東部	8月18日(月) 9:30~11:30 2F スポーツルーム	「おもいっきりダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 大塚るい 滝口淳子	4	3	39	7	46	子ども 39人(小学24 中学15) 大人 7人(職員) 合計 46人
5	野の花の家	8月25日(月) 13:30~15:30 ホール	「こまのたけちゃんですてきに「こま体験!」 たけちゃん 白鳥みゆき 買場都明 鈴木佳子	4	2	14	6	20	子ども 14人(小学9 中学5) 大人 6人(職員5 ボランティア1) 合計 20人
6	東上総児童相談所	9月2日(火) 13:00~15:00 2F 多目的室	「おもいっきりダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 綿貫のぼら 清水百世	4	2	12	5	17	子ども 12人(幼児3 小学7 中学2) 大人 5人(職員) 合計 17人
7	子山ホーム	9月27日(土) 13:00~15:00 集会室・戸外	「ワクワク!ドキドキ!いっしょにあそぼう」 大潤弘幸 棚田純子 滝口淳子 大塚るい	4	4	15	3	18	子ども 18人(幼1 小学14 中学3) 大人 3人(職員) 合計 18人
8	柏児童相談所	10月3日(金) 13:30~15:30 2F ホール・所庭	「からだをつかってみんなであそぼ!」 大潤弘幸 清水百世 綿貫のぼら 宇野京子	4	2	26	8	34	子ども 27人(小学14 中10 高校2) 大人 8人(職員) 合計 34人
9	はぐくみの杜かしわ	10月26日(日) 13:30~15:30 ホール「集い」	「人形劇&工作ワークショップであそぼ!」 納富俊郎 納富祥子 鈴木佳子 中村雪江	4	3	17	5	22	子ども 17人(幼児3 小学12 中学2) 大人 5人(職員) 合計 22人
10	中央児童相談所	10月28日(火) 13:00~15:00 4F 多目的室	「人形劇&工作ワークショップであそぼ!」 納富俊郎 納富祥子 大森智恵子 棚田純子	4	4	49	12	61	子ども 49人(幼児14 小学35) 大人 12人(職員) 合計 61人
11	銚子児童相談所	11月4日(火) 13:30~15:30 2階会議室	「おもいっきりダンスワークショップ」 安西真幸 安西千紗 鈴木佳子 綿貫のぼら	4	2	12	7	19	子ども 12人(幼児7 小学2 中学3) 大人 7人(施設職員) 合計 19人
12	ほうゆうキッズホーム	2月22日(日) 10:00~12:00 地域交流室・園庭	「君はこのなぞがとけるか?」 大森靖枝 大塚るい 菅井里恵 滝口淳子	4	2	16	3	19	子ども 16人(幼児2 小学生13 中学生1) 大人 3人(施設職員) 合計 19人
				48	31	307	86	394	

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

入場無料

アンティ先生のマジックショー & マジックワークショップ

2025 7.14 (月) 13:00-15:00

会場: 市川児童相談所 (〒113-8583 東京都葛飾区市川3-1-1) 対象: 2歳以上小学生まで
指導者: アンティ先生 阿部由香子 阿部由香子 清水水香 岡田由香子 参加費無料 募集人数: 55人

信じられないことが
目の前で起こる

想像(そうぞう)を
こえる魔法世界
(まほうせかい)

楽しいマジックに
挑戦(ちょうせん)
しよう!!

ビックリ
おどろき
おどろき

アンティ先生
プロフィール
魔法の力で子どもたちに楽しさを届ける。魔法の力で子どもたちに楽しさを届ける。魔法の力で子どもたちに楽しさを届ける。

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

ただ今子ども探偵募集中!

君はこのぞびどがけるか?

みんなで探偵遊びしよう!

日時: 8月4日(月) 13:30~15:30
会場: 不二学園 食堂 (〒290-0011 千葉県千葉市中央区不二1-1-1) 対象: 小学生・中学生
指導者: 大森雄枝 三根政信 買場都明 太田貴子 参加費無料 募集人数: 20人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

こまのたけちゃん

けん玉・こま回しにちょうせん!

プログラム: けん玉・こま回しに挑戦
日時: 2025年8月15日(金) 13:30~15:30
会場: 若津児童相談所 2F会議室 (〒290-0011 千葉県千葉市中央区若津1-1-1) 対象: 小・中・高校生
指導者: こまのたけちゃん 買場都明 平野京子 頼田純子 参加費無料 募集人数: 50人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

おもいっきりダンスワークショップ

日時: 2025年8月18日(月) 9:30~11:30
会場: 千葉市東部児童相談所2F スポーツルーム (〒290-0011 千葉県千葉市東区2-2-2) 対象: 小学生・中学生
指導者: 安西真希 安西千紗 大塚るい 海口淳子 参加費無料 募集人数: 50人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

こまのたけちゃん

すてきに「こま体験！」

日時: 2025年8月25日(月) 13:30~15:30
会場: 野の花の家 (〒290-0011 千葉県千葉市中央区野の花1-1-1) 対象: 小・中学生 20人
指導者: こまのたけちゃん 白福ゆき 買場都明 鈴木桂子 参加費無料

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

たのしいがいっぱい

おもいっきりダンスワークショップ

日時: 2025年9月2日(火) 13:00-15:00
会場: 東上総児童相談所2F多目的室 (〒290-0011 千葉県千葉市東区東上総2-2-2) 対象: 小学生・中学生
指導者: 安西真希 安西千紗 大塚るい 海口淳子 参加費無料 募集人数: 50人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

ワクワク!ドキドキ! いっしょにあそぼう

募集人数: 20人 日時: 2025年9月27日(土) 13:00~15:00
場所: 子山ホーム 集会所・戸外 (〒291-0011 千葉県千葉市子山1-1-1) 対象: 小学生・中学生
指導者: 大瀧弘幸 頼田純子 海口淳子 参加費無料

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

からだをつかって みんなであそぼう!

日時: 2025年10月3日(金) 13:30~15:30
会場: 柏児童相談所 (〒291-0011 千葉県千葉市柏1-1-1) 対象: 小・中学生 20人
指導者: 大瀧弘幸 宇野京子 清水百世 結貴のぼる 参加費無料

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

人形劇&工作ワークショップであそぼう!

日時: 10月26日(日) 13:30~15:30
会場: はぐくみの社かわ「集い」 (〒290-0011 千葉県千葉市中央区はぐくみ1-1-1) 対象: 小学生・中学生
指導者: 緒言俊郎・緒言祥子・鈴木桂子・中村重江 参加費無料 募集人数: 20人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

人形劇&工作ワークショップであそぼう!

日時: 10月28日(火) 13:00~15:00
会場: 中央児童相談所 4F多目的室 (〒290-0011 千葉県千葉市中央区中央1-1-1) 対象: 小学生以上・小学生
指導者: 緒言俊郎・緒言祥子・大森貴恵子・頼田純子 参加費無料 募集人数: 25人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

たのしいがいっぱい

おもいっきりダンスワークショップ

日時: 2025年11月4日(火) 13:30-15:30
会場: 銚子児童相談所 2階会議室 (〒290-0011 千葉県銚子市銚子1-1-1) 対象: 小学生・中学生
指導者: 安西真希 安西千紗 大塚るい 海口淳子 参加費無料 募集人数: 20人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

「児童福祉施設で暮らし子どもが笑顔になる
自己肯定感向上あそび交流」

ただ今子ども探偵募集中!

君はこのぞびどがけるか?

みんなで探偵遊びしよう!

日時: 2月22日(日) 10:00~12:00
会場: ほうゆう・キッズホーム 地域交流室 (〒290-0011 千葉県千葉市中央区ほうゆう1-1-1) 対象: 小学生・中学生
指導者: 大森雄枝 大塚るい 菅井里恵 買場都明 参加費無料 募集人数: 20人

こんなこと
できる?

おもいっきり体を
動かそう!

主催: 問い合わせ・申し込み先: 特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター
〒290-0011 千葉県千葉市中央区11-1-1 電話: 043-291-1000 FAX: 043-291-1001
E-mail: kankai@kankai.or.jp
URL: www.kankai.or.jp

後援: 千葉県 千葉市 千葉県教育委員会 千葉県教育会 千葉県児童福祉会

1. 市川児童相談所「アンディ先生のマジックショー&マジックワークショップ」

日時：2025年7月14日（月）13:00～15:00
 場所：2F 講堂
 参加者 61人
 （子ども 51人 施設関係者 10人）
 指導者： アンディ先生 中村幸恵 岡田泰子 清水百世

ワークショップの内容

紐のマジックからハト出現・絵のボーリングのボールが本物に・ティッシュマジックをみんなで挑戦・参加型でメンタリズムマジック・コインマジック・ジュースの空き缶・ペットボトルにカードが等

緊張気味の子どもたち、いきなり炎からハトが出現ではじけた「エ～、すごい」。次々繰り出されるマジックに「意味わかんない」「ありえな～い」と目が点。アンディ先生が拍手うれしいですね、と言うと思出したように大きな拍手。膝立ちや背伸びして見ている子ども達。ボンと一万円札が箱にあふれて「オオ！」子どもも大人も一体になって笑った。種明かしマジックで、「あ、わかった！」いろいろ思いついたことをしゃべって止まらない。嘘つきの得意な子は？一斉にハイハイと手が上がり、7人が前に出てメンタリズムのクイズだしのお手伝い。ドキドキ、でもアンディ先生に当てられた。ティッシュの瞬間移動マジックに挑戦、みんな出来てすごうれしそう。最後に全員がサイン交流。

子どもの声

- ・びっくりしすぎてつかれた。またみれるとうれしい
- ・アンディ先生のマジックがとてもすごかった。とくに「最初のあいさつ」の手からハトが出るマジックがすごい！きょう味がでた！と思った。また、マジックを見たり体験したい
- ・見てなんかげんきがでた。
- ・自分でもやってみようと思った。

施設関係者の声

- ・どうして？なんで？等の子ども達の考える力が高まったと思う。制限がある環境の中、とても喜んでた事がよかった。
- ・日頃、あじわうことのできない驚きや感動をマジックを通して、味わうことが出来た。マジックのしかけの説明を真剣に聞き、自分なりに解釈し、試みようとしている姿勢が見られた。
- ・種明かしで、自分たちもできると思わせ、想像を超えるしかけでさらに驚かせる技術が素晴らしかった。



2. (社福)大成会障害児入所施設 不二学園「君はこのなぞがとけるか？」

日時：2025年8月4日（月）13:30～15:30
 場所：食堂
 参加者 37人
 （子ども 30人 施設関係者 7人）
 指導者： 大森靖枝 三根政信 太田貴子 買場都明

ワークショップの内容

・アイスブレイク・手をたたこう・声のウォーミングアップ・パンダちゃんこんにちわ・探偵修行・村祭りの踊り・ボールから逃げよう・色おに・終了証授与・みんなで行進

嬉しい声、悲しい声・アンパンマンの声等の声を出していくうちに、表情も柔らかくなる。「探偵って知ってる？」「コナン！」「おしり探偵！」と声。「事件を解決する人だよ」と自然に探偵修行が始まった。「ペンを誰が隠した？最初のポーズと何が変わった？」見落としてなるものかと真剣な眼差し。次々答えが飛び出す。おーちゃんの「やったー！」「残念！」のポーズでますます大喜び。耳の修行「口まね」で中高生も乗ってきて楽しみ、小学生の面倒もよく見ていた。「海に生き物修行」では知っている生き物が飛び出し、考えていろいろなポーズをとったり部屋中を走り回り、みんなの笑い声が響く。探偵には身体も大事、回る大きなビーチボールをよける「スーパーたこさん」や「色おに」で周りの様子を見たり、お題を聴いて動いた。途切れない修行であつという間の2時間。最後に探偵修了証を授与。

子どもの声

- ・たのしかった。
- ・またやりたい。
- ・じゆう
- ・またきてください
- ・うれしかたです
- ・またやりたいです

施設関係者の声

- ・中高生のダンス、ノリが良かった
- ・自分の個性を素直に表現していた
- ・高校生がだんだん気持ちが開いていく事に成長を感じた。
- ・子どもたちが集中して取り組んでいる姿が見られ嬉しかった。それぞれが見る、聴く、考えるようすがあり、最後まで楽しんで取り組んでいた。
- ・子どもの注目を集めるテクニックがすばらしいと思った。話し方や動き、楽器の音で子どもたちが引きつけられた



3. 君津児童相談所「こまのたけちゃん&けん玉・こま回しにちょうせん」

日時：2025年8月15日（金）13:30～15:30

場所：2F 会議室

参加者 39人

（子ども25人 施設関係者14人）

指導者：こまのたけちゃん 買場都明 宇野京子 棚田純子

ワークショップの内容

- ・けん玉とコマの種類や技
- ・いろいろ昔遊び道具(玉すだれ、皿回し、スティック等)・こま回しに挑戦

けん玉が得意な男子は、たけちゃんが技を紹介すると「そうそうそう!」と声を上げて相槌を打つ。「オオー!飛行機!」難しい技になるにつれ成功を我がことのように喜んだ。扇子の上や刀の切先でのこま回しでは、息を止めて見守る。成功の瞬間ウワッと爆発するように声がどよめいた。遊び体験タイム、ゆずりあったり小さい子を助けたり優しい。子どもたちの好奇心は炸裂状態で夢中になってチャレンジした。たけちゃんとけん玉の技対決をする子もいた。退室の時、名残惜しい男子たちは「大道芸人になって会うわ」「わすれないでね!みんなハイタッチ。



子どもの声

- ・ティアポロたくさん失敗したけど、1回だけ成功してうれしかった。この体験はあまりないので忘れないようにしていきたい。むずかしかったけどまわしたとき気持ちよかった。
- ・できた時は達成感や発見もあるし、昔の遊び道具の使い方も知ってとても楽しかった。
- ・たけちゃんの技がすごかった。こまを手のひらにのせられた。またやりたい!

施設関係者の声

- ・たけちゃんとの会話を楽しみ、自ら「やりたい」「遊びたい」と参加して、あきらめずに取り組んでいた。難しくても最後まで挑戦しようとする意欲は、達成感や自己肯定感につながる。
- ・子どもたちの笑顔がたくさん見られて嬉しかった。ワーク後も、夜の自由時間にもこまを一生懸命練習して楽しんでいて、毎年来て頂いて感謝です。長く続けてください。

4. 千葉市東部児童相談所「おもいっきりダンスワークショップ」

日時：2025年8月18日（月）9:30～11:30

場所：2F スポーツルーム

参加者 46人

（子ども39人 施設関係者7人）

指導者：安西真幸 安西千紗 大塚るい 滝口淳子

ワークショップの内容

- (ストレッチ・ジャンプ・よつんばい)
- ジャンボリーミッキー等「倍倍倍ファイト」にのせ振り付け 男子は得意な物、事、動きを聞き出しポーズにして披露

男子も女子も準備運動の時、子どもたちに名前呼びかけ、「〇〇ちゃん、10カウントお願いしてもいい?」カウントすると「いいですね。ありがとう。声の大きさも良かったよ」とお願いされた子どもは嬉しそうだった。休憩時間も振りの練習をして体を動かしていた。ほとんどの子が知っている曲だったので振りつけが良く分からなくても飛んだり跳ねたりして楽しそうだった。指導者まあちゃんに「いいですね」「ありがとう」と言われると照れながらも嬉しそうだった。まあちゃんが、それぞれの子どもたちの得意なものを聞き出していく。野球、側転、サッカーなどなど、ひとりまたひとりと自分の得意なことを披露し始めた。それが振りになっていく、3人の子が考え中という振りを最後までやり通し、自信たっぷりに演じていた。



子どもの声

- ・私はダンスが好きでやっていたが、ここでは踊る機会がなかったので踊れて嬉しかった。ノリノリで踊った。もっとやりたい!と思った。何かがふっきれたようで、とても気持ちが良い。
- ・自分の動きとか作れるのが良かったし色々な動きがあって楽しかった。
- ・最初はちょっとやれるかな?と思っていたけど、皆と一緒にやってみれば少しずつできてきて、すごく楽しかった!またやってみたいという気持ちになった。

施設関係者の声

- ・普段あまり自己表現しない子がダンスを楽しむ姿が見られた。体を動かすことで多少なりともストレス発散になったと思う。
- ・全身を動かすことで、のびのびと表現できている様に感じた。またダンスにより自己表現を楽しめた子は、別の時間に意欲的に取り組んでいたのも、子どもたちが楽しかったことが感じられた。

5. (社福)一粒会児童養護施設野の花の家「こまのたけちゃんとしてきに「こま体験!」

日時：2025年8月25日(月) 13:30~15:30

場所：ホール

参加者 20人

(子ども14人 施設関係者5人 ボランティア1人)

指導者：こまのたけちゃん 白鳥みゆき 買場都明 鈴木佳子

ワークショップの内容

- ・けん玉とコマの種類や技
- ・いろいろ昔遊び道具(玉すだれ、皿回し、スティック等) ・こま回しに挑戦

たけちゃんの演技は迫真で、始まったとたん小学生たちは、身をのりだして「エーッ!」「ホーッ!」「スゲーッ!」「やってみよう!」と声があがった。コマをプレゼントしてみんなでこま回し。コマを回したことのある子3人は巻き方も投げ方も手つきがよく、ビュンビュンまわして、たけちゃんと勝負を何回もしていた。初めての子は、紐巻きで何回もグシャッとなってしまいがち。そこで、指導者スタッフが巻くコツを話しながら、「水平に放る」を伝えて回してみせると、それがとてもうれしそうで、自分で巻くことを何度もしんぼう強くやっていた。世界の色とりどりの大小のコマがスタジアムに放りだしてある。どれもひもなしで回せるので、低学年の子たちが集まって、けっこう長時間遊んでいた。

子どもの声

- ・たけちゃんへ。うれしかった
- ・むずかしそうだった・たのしかった
- ・たつじんの人がおしえてくれてうれしかった
- ・こまのたいけんができてうれしかった。
- ・はじめて中国ごまができてうれしかった。最初は普通だったけど、やってるうちにもっとやりたくなった。こまのたけちゃんからもらった黄色のコマ、1つももらってうれしかった。見たことのないコマの種類があつておどろいた。また来てください。

施設関係者の声

- ・上手にコマをまわせたとき時、まわりからの声かけに対し、うれしそうにしていた。
- ・子どもたちが飽きることなく、あっという間に時間がすぎた。その場でできたこともあると思うが、コマを続けることで、色々な技ができるようになれば自己肯定感も上がると思う。
- ・色々な種類のけん玉が次々にできて、挑戦し、じょうずにできた喜びや達成感を感じていた。



6. 東上総児童相談所「おもいっきりダンスワークショップ」

日時：2025年9月2日(火) 13:00 ~15:00

場所：2F 多目的室

参加者 17人

(子ども12人 施設関係者5人)

指導者：安西真幸 安西千紗 綿貫のばら 清水百世

ワークショップの内容

- ・ストレッチ ・曲に合わせて動いてみる ♪ベイビーシャーク ・フープをくぐる マーちゃんを飛び越える ♪マリオの曲で踊る・♪ナルトダンス 男女で振りを考え合わせてナルトダンス完成

幼児は、ストレッチで「すごいねー」「できたねー」など声をかけに笑顔になり、少しずつ気持ちもほぐれてきた。後半は楽しさが全身から溢れていたようだ。フープをくぐるはとっても楽しそうで、引っかかっても気にせず笑顔で何度もくぐっていた。まーちゃんを飛び越える時には一瞬躊躇していたが、踏まないようにと気を付けながら飛び超えていた。まーちゃんと飛ぶと嬉しいのか、ぴよんぴよんと跳ねるように飛んでいた。小中学生は、ストレッチの際、カウントを取ってくれる?と子どもに投げかけると、指名された子は、嫌がらずにカウントを取ってくれた。振りを考える時、男子は積極的に意見を出し大笑いしながら作っていた。女子の可愛い振りには、男子は少し照れながらもしっかりと踊った。男の子が「また会えるといいな」とぼそっと言っていた。

子どもの声

- ・ダンス大好き、ひさしぶりでとても楽しかった。またやりたい、むずかしいダンスとかもちょうせんしたい!
- ・いつもは知らないみんなのことも知れてうれしかった。みんなで声を出したら、きんちょうがほぐれた。
- ・まあちゃんのおかげでダンスが好きになった。
- ・久しぶりの運動。体が硬かったのですが、ストレッチやダンスが、とてもいい効果がある感じがした。

施設関係者の声

- ・自発的に動いて発言したり、挑戦する姿があった。上手くできなくても楽しみ、がんばる気持ちが持っていたようだ。
- ・はじめは緊張した様子で、表現や動きが固かったが、指導者の働きかけで、コミュニケーションがとれるようになり、ひきこまれていくのを感じた。
- ・ネガティブからポジティブへ感情が変化したことは、普段関わる大人として嬉しい自らの学びにもなった。



7. (社福)チルドレン・パラダイス児童養護施設 子山ホーム

「ワクワク!ドキドキ!いっしょにあそぼう」

日時：2025年9月27日(土) 13:00~15:00

場所：集会室・戸外

参加者 18人

(子ども15人 施設関係者3人)

指導者：大潤弘幸 棚田純子 滝口淳子 大塚るい

ワークショップの内容

・ゾンビ・ハンカチ(ボール)落とし 震源地は誰だ 新聞ばごーん 新聞陣取り 紙コップけん玉作り けんだまあそび コマ回し・外あそび 新聞紙しっぽとりゲーム

ゾンビゲームで大潤さんの突っ込みに何回も笑い転げながらコミュニケーション。「今日はね。ハンカチ落としじゃなく新聞紙玉落とし」新聞玉を持った鬼がそっと後ろに落とす。気づいて鬼を追いかける全速力はすごい迫力だ。走ると知って靴下を脱ぎ捨てていた。震源地は誰?では、だんだんと子どもたちの知恵に、大潤さんは震源地を見つけられなかった。子どもたちのはしゃぎようはすごい。新聞陣取りはじゃんけんで負けて紙を一回折る、立つところが小さくなり最後は片足つま先で立ち。紙コップけん玉づくり、自分なりに魔改造。作ったけん玉が、糸電話、紙コップキャッチボールへと遊びが変化した。これこれ!遊びっていいね!外で新聞紙しっぽ取り。チーム戦で女子の最強リーダーの存在も見え、疲れを知らない子どもたちが、大声を出し群れて遊ぶ、楽しそう。お別れの時に「また来てほしいな」と男の子がつぶやいた。



子どもの声

・もっとやりたい・またやりたい 13人 86%。たのしかった 12人 うれしかった 6人 おもしろかった 8人 げんきになった 6人 きぶんがよかった 7人 やれてよかった 9人と積極的な気持ちをたくさん感じたことがわかる。また来てほしい・またやりたいは参加した子どもの90%。

施設関係者の声

・最初は乗り気でなかった子ども。ワークショップの方々の楽しい姿を見て、楽しく遊びに参加できていたと感じた。また、工作などを通じて子どもたちの発想力が向上するようになった。ルールを無視している子がいれば、注意している所を笑いに変えておりプロを感じた。

8. 柏児童相談所「からだをつかってみんなであそぼう！」

日時：2025年10月3日(金) 13:30~15:30

場所：2Fホール・所庭

参加者 35人

(子ども27人 施設関係者8人)

指導者：大潤弘幸 清水百世 綿貫のぼら 宇野京子

ワークショップの内容 ①ゾンビ ②震源地 ③アランがきた ④しりとり ⑤じゃんけん新聞折り⑥しんぶん玉とばし⑦紙コップけん玉づくり・魔改造 ⑧こままわし ⑨(所庭で)だるまさんが転んだ ⑩しっぽとり

緊張気味に入室した子どもたち、おおまくんの「あそびます」の呼びかけに、「いいよー」と、顔がほころんだ。ゾンビが名前を呼びながら近づいてくる。つかまる前に他の人の名前を呼ぶと、ゾンビがそっちに行くので難を逃れられる!一気に小学生がわー、きゃー、ギャーと盛り上がり、早くもおおまくんワールドに引き込まれた。震源地の鬼になりたい子がたくさんでて、生まれ月で、2人鬼で決めた。紙コップけん玉をととても丁寧に作り、技も見せてくれた。外に出てしっぽ取り、しっぽを取られると、ニコニコしながら、「しっぽくさーい」と、しっぽ工場にもらいに来た。小学生が張り切って走りまわり大きな声を出して、笑って叫んで、まさに疲れ知らず!

子どもの声

・しっぽとりが楽しかった。しっぽは2本しかとれなかったけど、みんなしんけんにやっていて、特に楽しかった。またやりたい。
・いろんなことができて楽しかった。部屋に帰ったあと、疲れて2時間もねちゃったよ。
・すごく楽しかった。おおまさんの「ツッコミおもしろかった。「この人の仕事すごいな…楽しそう」と思いました。

施設関係者の声

・保護所での日課では味わえない活動に取り組み、笑顔がたくさん見られた。
・普段の活動で、イラつき、あきらめ等があり、今回の活動でもそれが予想されそうな場面でも、児童からそれが見られず、児全体が楽しむようすがあった。
・トイレ休憩で会う子たちが口々に「ねー、チョーたのしいんだけど!」と教えてくれた。課題を抱える子どもが多く、運動会もない生活で、今日は発散できて本当によかった!



9. 生活クラブ風の村はぐくみの杜かしわ「人形劇&工作ワークショップであそぼ！」

日時：2025年10月26日（日）13:30～15:30
 場所：ホール「集い」
 参加者 22人
 （子ども17人 施設関係者5人）
 指導者：納富俊郎 納富祥子 鈴木佳子 中村雪江

ワークショップの内容
 スーパー人形劇 演じてみよう「こぶた・たぬき・きつね・ねこ」「赤ずきんちゃん」人形劇をやってみよう 工作「ばたばたちょうちょ」



「これは何?」「スーパーの袋!」で始まった人形劇は、袋に息を吹き込み、ねこ、うさぎ、きつね…と作るのを、「ポカーン!」と見ていた。シュールな変身を「そういうことか」と見ていた。封筒をくしゃくしゃにして、カエル、カメレオンなどに变身させ、ハエ、みみず、などをつかまえようとするが「あーさんねん!」のやり取りに「あはは!」「あ〜あ!」と反応した。「赤ずきんちゃん知ってる?」「知ってるよ!」、「うまさうなおじょうちゃんどこにいる?」と訊くと「あっちあっち!」と教えたり、「おばあちゃんどこ?」と訊くと「食べられたんだよー!」と教えた。ダジャレがいっぱい、くるくるとまわる舞台に笑顔がいっぱいだった。パタパタちょうちょ製作、左右非対称の模様、表と裏でまったくちがう模様、羽の色がぜんぶちがうトンボ等、個性的なものが次々に生まれ、最後は作品を並べて記念写真を撮った。



子どもの声

・たのしかった・またやりたい。おもしろかった・ちょうちょをつくるのが楽しかった。紙の色がいっぱいあってよかった・もっと時間がほしかった。紙の色がいっぱいあってよかった。日々学校などで疲れた体をゆっくり休めた気がした。

施設関係者の声

・人形劇を観ることも、工作をつくることも、とても楽しそうに参加できてよかった。
 ・「いいじゃん!」「ここはサイズかえようぜ!」などかわわり、子どもがやりたいことに沿ってほめたりした。・予防注射に行ったため、終わる時間に「材料をください!」と参加した小学生は、好きな色を選び、ひとりだけ寂しいおもいをしなくてよかった!



10. 中央児童相談所「人形劇&工作ワークショップであそぼ！」

日時：2025年10月28日（火）13:00～15:00
 場所：4F 多目的室
 参加者 61人
 （子ども49人 施設関係者12人）
 指導者：納富俊郎 納富祥子 大森智恵子 棚田純子

ワークショップの内容
 ・スーパー人形劇 ・こぶたぬきつねこ ・人形劇あかずきんちゃん ・工作ワークショップ幼児のみパタパタちょうちょを作成



スーパーの袋を使ったスーパー人形劇は、きつねやおおかみ等次々様々な人形に変化させ、紙で作ったカエルくんやカメレオン、ハエを捕って食べる瞬間、失敗して「さんねーん」子どもたちに大受け。「赤ずきんちゃん」の一人5役肩掛け人形劇は、舞台からオオカミが飛び出すと、小学男子が「どうなってんの??」と、首を傾けた。仕掛けにも興味をもち、弱いオオカミと賢い赤ずきんちゃんのかけあいに、子どもたちはお腹を抱えて何度も何度も笑っていた。「ばたばたちょうちょ」づくりでは、自分でも「制作が好き、得意」と言っていた子は、はさみを上手に使ってアンパンマンが好きだから、シールでアンパンマンの顔をつけた。色とりどりのちょうちょができあがり、ひとりひとりのセンスが素晴らしかった。



子どもの声

・アンケートから、楽しかった29人 おもしろかった29人 うれしかった15人 元気になれた15人と、また来てほしいと、人形劇と初めて出会ったと思われる子どもたちが心から楽しんだ。
 ・なつかしい人形劇遊びとかあって楽しかったし、おもしろいお話をたくさん聞いて元気がでた。
 ・人形を作ってうまく工夫をしたりされていた。それがとてもすごいと思った

施設関係者の声

・子どもたちが身を乗り出して笑いながら観ていて、みんな表情がイキイキして楽しそうだった。毎日同様な日課で過ごす子どもたちにとって新鮮だった。みんな最後まで集中していた。
 ・制作物を自分でできた!と笑顔で見せて回っていた。自己肯定感が高まり、意欲的に活動して、前向きになれたと思う。来年もまたお願いしたい。
 ・笑顔が少ない児童が声を出して笑っていたこと、劇の表現がすばらしかった。



11. 銚子児童相談所 「おもいっきりダンスワークショップ」

日時：2025年11月4日（火）13:30~15:30

場所：2F 会議室

参加者 19 人

（子ども 12 人 施設関係者 7 人）

指導者：安西真幸 安西千紗 鈴木佳子 綿貫のぼら

ワークショップの内容

体ほぐし・♪幸せなら手をたたこう ♪ベイベーシャーク ♪さかながはねて・じゃんけん列車 フラフープを使って♪エビカニクス ♪スーパーマリオブラザーズ・ダンスを作る Snow Man ♪カリスマックス ♪あーぱつあぱつ ♪ジャンボリミッキー

まあちゃんの「楽しくできればそれでいいです」ではじまった。準備運動にエーッ！の声が上がった。四つん這いが得意な子、最後まであきらめずに頑張った子、ゴールするとちょっと恥ずかしそうにしていた。ストレス解消するかのようには部屋中、周りまわると疲れ知らず！先生方も子どもたちに誘われて一緒に頑張ってくれた。子どもたちはとてもうれしそう。幼児は知っている曲がかかると一生懸命に体を動かした。フラフープも楽しそうに入ったりくぐったりしていた。まあちゃん、ちーちゃんをまねてダンス、実に楽しそう。学童期の子どもたちのダンス、最高！まあちゃんと意見を出し合いながら一緒に1曲作り上げた。キレッキレなダンスに驚き。もっともっと踊っていたそうだった



子どもの声

・ひさしぶりにうんどうできて すっきりしました。たのしかったです。
・次はもっとむずかしいのやりたいです！
・またできたらやりたいです。
・またやりたいです。いっぱいおどりをおしえてくれてありがとうございました

施設関係者の声

・自信のない子も色々な動きを見せ、止められるのではなく認めてもらえることに喜んでいました。指導者や職員から沢山ほめられてうれしそうなお顔がよく見られました。
・ダンスが出来てもできなくてもパフォーマーのまねをして上手にできたり、リズムにのれた姿を職員や大人がほめることで子どもたちの達成感や自己肯定感の向上につながったと思う
・一生懸命にダンスを踊る表情、特に目の輝きがすごかった(やる気に満ちあふれていた)

12. (社福)鳳雄会児童養護施設ほうゆう・キッズホーム「君はこのなぞがとけるか？」

日時：2026年2月22日（日）10:00~12:00

場所：2F 地域交流室・園庭

参加者 19 人

（子ども 16 施設関係者 3 人）

指導者：大森靖枝 大塚るい 菅井里恵 滝口淳子

ワークショップの内容

・導入・紙芝居：くいしんぼうのペンギン・ふえでこんにちは
・探偵紹介・探偵修行(目,耳の修行,尾行&変身
・昭和の窓・みんなを守る妖怪さがし・修了証

子どもたちはのびのびとノリノリでおーちゃんの問いに答えていた。正解の時には喜びの声を出して！というおーちゃんに対して、「ガラスが割れるよ」と子どもたちが答えたら、実際に正解した時、本当にガラスが割れるのではないかと思うほど、大きな声で子どもたちが喜びを表現していて、ビックリ！尾行の修行では、ぞうきん、木、恐竜、女優、滑り台と変身、本当に様々！発想の豊かさ！素晴らしい！表現することが自然体の子どもたちだった。園庭に出て、探偵になりきり、次々に、妖怪を発見し「見て！見つけたよ」「こっちにもあった！」と呼ぶ声が聞こえていて、「これが目、口だよ」と、教えてくれた。たくさん妖怪を発見して記録を書いた。8つの暗号カードを見つけ、部屋に戻ってナゾ解き、高学年の女の子が一番前に座り、真剣に考えた。やりきって修了証に嬉しそう。終わって、「将来探偵に就職する！」と言いに来た女の子、将来への希望や目標を考えるきっかけにもなったようだ。



子どもの声

・おもしろいおはなしをかんがえてくれてありがとうございました。
・またやりたい
・たのしかった。
・なぞときがおもしろかった。
・たのしかった。もっとむずかしいのやりたかった

施設関係者の声

・最初はただ座ったり、転がったり、斜にかまえていたりしていた子ども達が、次第に自分から発言し、表現し、創り出していくことに夢中になっていく、その変化が手に取るように見えて、とても感動した。
・他児やワークショップのみなさんとたくさん会話している楽しそうな姿が見られた。



今年度の取り組み経過概要

- ① コロナ禍以降、家庭での虐待や保護を必要とする児童が増加傾向にあり、千葉県では児童相談所の増設が決まっている。施設での生活が、子どもたちの遊びや様々な人とのコミュニケーションの機会も制限したり、心身の発達への影響も危惧されたりとどの施設でも感じていて職員も苦勞されていた。県内すべての児童相談所や声をかけた養護施設では、芸術体験の企画の提案をととても歓迎された。新設した1施設にも拡げた。
- ② 当団体では感染防止対策のガイドラインを作成し、事業実施7日前から健康チェックシートで、指導者・スタッフの健康チェックをして臨んだ。また、施設の対応に沿って安心と安全を可能な限り保証することを心がけた。

事業の成果

- ① 施設での生活の課題とニーズを把握し指導者を選び、プロのパフォーマーによる芸術的な遊びや交流体験ワークショップを提供した。予定通り、7児童相談所5児童養護施設で計12回実施し、394人（子ども307人 大人87人）が参加した。
- ② 子どもたちは、たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、げんきになった、うれしかった、きぶんがよかった、と、初めてやることにも積極的に参加し、楽しんだ様子がわかる。また、友達と協力したり、指導者とのふれあいでリラックスし思いっきり遊び、またやりたいとの声が多かった。
- ③ 施設職員は、普段あまり見られないような子どもたちの表情や笑顔が多く見られたことを一番に評価していた。自分らしい表現や思いっきり遊ぶ子どもたちが満足感達成感を感じ、もっとやりたい意欲が高くなったととらえている。自己肯定感の向上が見られたと感じている
- ④ プロのパフォーマーの指導者の技や語り口によって、子ども達はあっという間に楽しい空間に引き込まれ、質の高いアート体験や遊びの交流が高まった。子どもたちの発する表現を丸ごと受け止める言葉かけや間の取り方が、施設の職員にも評価され、気づきがたくさんあったようだ。自分の表現や反応を褒めてもらい子どもの表情がぱっと変わり自己肯定感につながった様子が見えた。友達とのコミュニケーションにも広がり、プロの表現に触れたときの感動や驚きは、将来の希望を考えるきっかけにもなったようだ。
- ⑤ この事業では施設の担当者と指導者をつなぐコーディネーターの役割が重要である。丁寧な打ち合わせで、子どもたちのニーズにあわせプログラミングしていく。特に、職員を巻き込んだプログラムは子どもたちも盛り上がった。職員と一緒に作るプログラムにするのは良いと思った。当日は協力者も参加することで、子ども達ひとりひとりとコミュニケーションをとり、臨機応変にもした。施設の信頼にもつながっている。

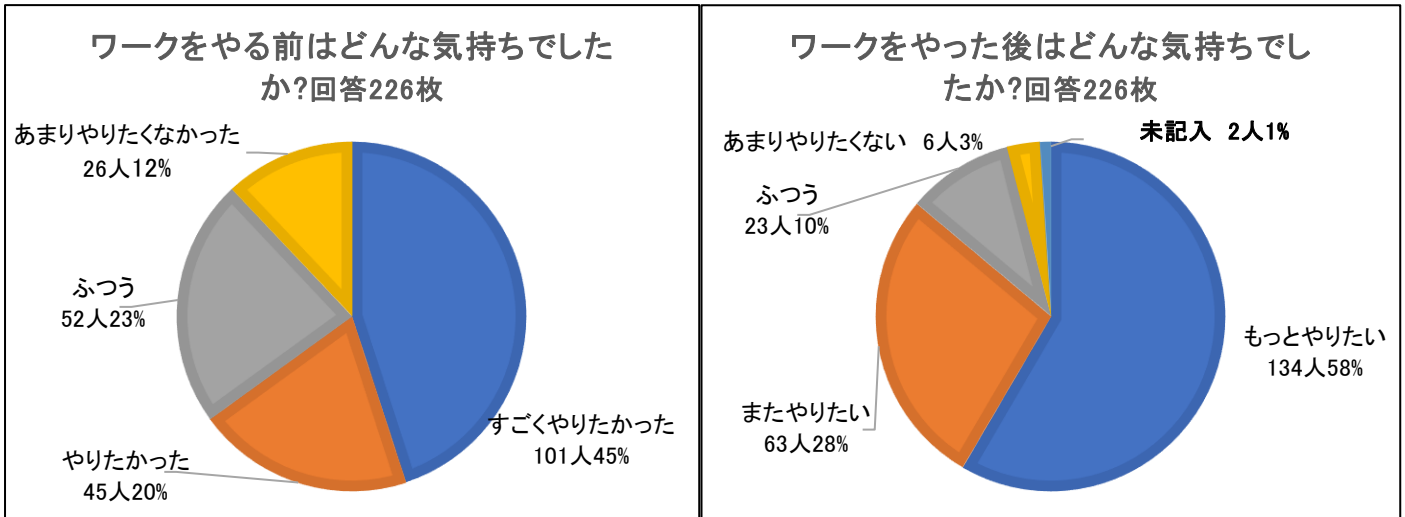
課題

どんな状況にある子どもにも芸術を通してあそび、体験の機会を絶やさないこの事業は、定期的な継続が必要である。「こども大綱」のこどもの遊び体験活動・ウェルビーイングの重要性を実現するために行政との連携が必要だと考え、提案書を作成し提案していく。見学にも来てほしい。

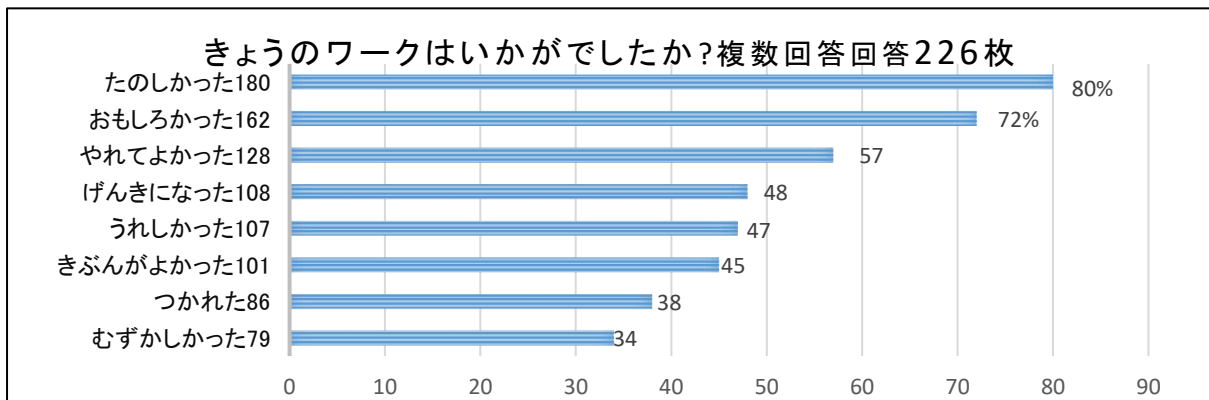


【コーディネーター】	市川淑江 宇野京子 越後久美子 大塚るい 大森智恵子 岡田泰子 恩田奈央子 買場都明 加藤香都代 笠原直子 桑原信子 菅井里恵 椎名好子 塩沢千秋 大山菜穂子 清水百世 白鳥みゆき 白幡緑 鈴木佳子 高橋知子 滝口淳子 棚田純子 中川香子 中村雪江 中村幸恵 早川良美 綿貫のばら 渡辺美佐緒
-------------------	---

◆資料 1 子どものアンケートから見た子どもの気持ち (226 枚、アンケート回収率 74%)



「すごくやりたかった 45%」や「やりたかった 20%」と約 3 分の 2 の子どもたちがワクワクとワークショップを楽しみに待っていることがわかる。何をやるのかどんな人が来るのか、不安な気持ちの子どもたちも多くいて、「ふつう」「あまりやりたくない」という気持ちの子も 3 分の 1 いた。ワークショップをやったあとは、86%の子どもが「もっとやりたい」「またやりたい」と、答えている。「ふつう」と答えている子もいるが、みんな笑顔いっぱいになっていた。「あまりやりたくない」と、チェックした子は、「つかれた」とも表現しているが、自由記述では楽しかったと書いていて、100%の子どもたちがそれぞれに楽しんでいた。

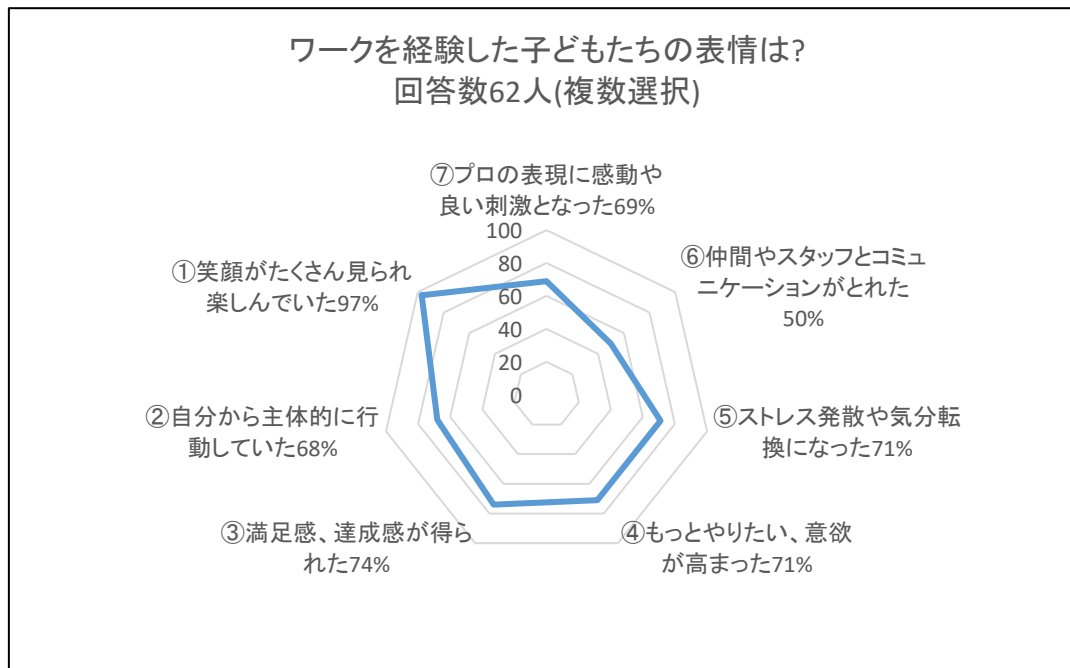


複数回答のアンケートで、「たのしかった 80%」「おもしろかった 72%」とほとんどの子どもたちが答えている。「やれてよかった、げんきになった、うれしかった、きぶんがよかった」と、前向きな気持ちを占めており、この体験が子どもたちにとってどんなに楽しく心地よい時間であったかが明らかである。情緒的 QOL が高まったと言える。特に、「やれてよかった」の中には、みんなとやれてよかった、自分にもできてよかった等、様々な気持ちがあるようだ。また、「疲れた」は、思いっきり体を動かした様子であり、「むずかしかった」は、完璧に一生懸命にワークに取り組んでいた様子でもある。

■アンケートの自由記述から

- ・今日はとても楽しかった。日々学校などで疲れた体をゆっくり休めた気がした。
- ・たつじんの人がおしえてくれてうれしかった
- ・思わずノリノリで踊っていた。終わるころには、疲れたよりももっとやりたい! という気持ちの方が勝っていた。今は何かがふっきれたようで、とても気持ちが良い。
- ・ワークショップのあと なんかげんきがでた。
- ・さいしょのマジックでハトがでてきてびっくりして さいごまでアンディ先生もおもしろかったし、また、マジックを見たいです。 ・めちゃくちゃたのしかった。
- ・みんないろんなことができて楽しかった。部屋に帰ったあと、疲れて 2 時間もねちゃったよ。またやりたい。
- ・なぞときがおもしろかった

◆資料2 施設関係者のアンケートから見た自己肯定感を感じたところ (回答数 62 枚)



ワークショップで「笑顔がたくさん見られ楽しんでた 97%」と、ほぼ 100%の方が回答している。一方で、「満足感、達成感が得られた 74%」と高評価している。「ストレス発散や気分転換になった 71%」と「もっとやりたい、意欲が高まった 71%」も高い。気分良く過ごすことができ、前向きな意欲にもなり QOL の向上や自己肯定感が高まりにつながると言える。プロのパフォーマーとの出会いでプロの技にふれ、芸術的なプログラムで「プロの表現に感動や良い刺激となった 69%」ということが原動力になったと言える。「自分から主体的に行動していた 68%」様子が見られていることには、パフォーマーやスタッフの声掛けなどの交流の影響も大きく、「仲間やスタッフとコミュニケーションがとれた 50%」と、多くの職員の方が見ている。

■芸術やあそびの専門性のある指導者の力、ここはプロだなと感じたところがありましたか?

- ・しかけを話すことにより、自分たちもできると思わせて、想像を超えるしかけでさらに驚かせる技術が素晴らしかった。
- ・特性のある子どもが多いなか、視線をひとつにするカリスマ性、夢中にさせるような言葉選び
- ・子どもを引き込む話術、対応の仕方が上手であると感じた。特につっこみが的確であると感じた。
- ・劇では子どもたちへの声かけをしながら、楽しみながら参加することができたところ
- ・否定的な言葉を一切使わず、子どもの意欲や主体性を引き出していたところ。
- ・自己表現を受け入れ、安心して挑戦できる雰囲気を作っていたところ。また、子どもの理解にその場で合わせてわかりやすい声掛けを行っていたところ。

■この事業の成果や子どもの自己肯定感や QOL 向上につながったと感じられましたか?それはどのようなことでしたか?

- ・どうして?なんで?等の子ども達の考える力が高まったと思います。制限がある環境の中、とても喜んでた事がよかったです。
- ・みんな飽きることなく最後まで取り組む様子が見られた。保護所の自由時間も楽しそうにコマで遊び、技を一生懸命練習していた。
- ・コマ回しが成功できなくても成功するまで諦めず取り組んでいた。難しいことでも最後まで挑戦しようとする意欲は達成感や子どもの自己肯定感につながるを思われた。
- ・普段あまり自己表現しない子がダンスを楽しむ姿が見られました。体を動かすことで多少なりともストレス発散になったと思います。・音楽に合わせて踊る子どもたちの楽しそうな笑顔がたくさんあった。
- ・子どもたちがこだわりをもって自分のちょうちょをつくっているようす

■実施後感じられた、本事業へのご意見、今後のご要望、改善点などをお聞かせください。

- ・子どもたちが楽しそうに集中して芸術や遊びにふれられた。中々体験できないことを体験させて頂きありがとうございました。



「こども基本法」「こども大綱」は、子ども・子育て施策の大転換

～子どもにとっていちばんよいことを行う～

「こども家庭庁」の設立、子どもの権利条約の理念が書き込まれた「こども基本法」が施行され、「こども基本法」に基づき、子ども施策を総合的に推進する方針等を定めた「こども大綱」が閣議決定されました。

「こども大綱」には「こどもまんなか社会」が謳われており、「切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。」と書かれています。「こども基本法」「こども大綱」は大人社会(親・家庭・学校・地域・行政)の意識を変え、あまねく子どもに関して「拠って立つ」柱です。今後5年程度を目途に、県や市町村等自治体でも「こども計画」を策定し、より具体的な施策を計画し推進することになっています。

「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」とは

～すべての子ども・若者が、身身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

＜こども基本法＞(一部抜粋)

こども基本法は、日本国憲法、児童の権利に関する条約(以下「こどもの権利条約1」という。)精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す。

＜こども大綱＞(一部抜粋)

全ての子ども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができる社会。

◆◆ライフステージを通じた重要事項◆◆

(1) 子ども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等

(2) 多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり (遊びや体験活動の推進、生活習慣の形成・定着)



遊びや体験活動は、子ども・若者の健やかな成長の原点である。

例えば、こどもが遊びに没頭し、身体の諸感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造力や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育むことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながり、ひいては、生涯にわたる幸せにつながる。

こういった遊びや体験活動の重要性、学びへのつながりや、その機会を保障することの重要性を改めて認識した上で、国や地方公共団体、地域、学校、家庭、若者、民間団体、民間企業等が連携・協働して子ども・若者の全てのライフステージにおいて、年齢や発達程度に応じて、自然体験、職業体験、文化芸術体験など多様な体験・外遊びを含む様々な遊びができるよう、青少年教育施設の充実を含め、地域資源も生かした遊びや体験の機会や場を意図的・計画的に創出する。地域や成育環境によって体験活動の機会に格差が生じないように配慮する。



◇◇ライフステージ別の重要事項◇◇

(こどもの誕生前から幼児期まで)

こどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたるウェルビーイングの基礎を培い、人生の確かなスタートを切るための最も重要な時期であるとともに、この時期への社会的投資が次代の社会の在り方を大きく左右するため、社会全体にとっても極めて重要な時期である。

また、乳幼児は多くの時間を家庭や地域の中で過ごし、幼稚園・保育所・認定こども園への就園状況も異なるなど、育ちの環境は多様である。その多様性を尊重しつつ、保護者・養育者の「子育て」を支えることだけでなく、「こどもの育ち」に係る質にも社会がしっかりと目を向け、保護者・養育者の就労・養育状況を含むこどもの置かれた環境等に十分に配慮しつつ、ひとしく、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。

乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得を通じて、一人一人のこどもが、かけがえのない個性ある存在として認められ、自己肯定感をもって成長することができるようにしなければならない。



令和7年度子どもゆめ基金
「児童福祉施設や児童福祉施設で暮らす子どもが笑顔になる
自己肯定感向上のあそび交流」
報告書

発行日 : 2026年 3月 20日

発行者 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

発行所 : 特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102号

TEL : 043-301-7262 FAX : 043-301-7263

メールアドレス : kidchiba@lily.ocn.ne.jp

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

令和7年度子どもゆめ基金助成事業報告書